

科目名	保健政策・医療管理学概論	code number : HPM 203	必修	1 単位
-----	--------------	--------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

保健行政・医療管理学分野は公衆衛生学の中でも多岐にわたり、すべての分野を十分に把握するのは困難である。各分野の専門家でも自分の専門外を十分に理解できないことも多い。そこで本講義ではオムニバス形式で保健行政・医療管理学分野内の各専門家がそれぞれのサブスペシャリティの入門部分を解りやすく解説し、初学者にとっても保健行政・医療管理学分野全般を概観できるようになる手助けをすることを目的とする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.保健行政・医療管理分野を概観する。

【行動目標(SBO)】

- 1.保健行政・医療管理学分野の各サブスペシャリティを理解できる。
- 2.保健行政・医療管理学分野を今後の学習に役立てることができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

各授業ごとに指定する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

保健政策・医療管理学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	3	中田 善規 教授	導入および医療経営学
2	4/25(火)	3	山本 秀樹 教授	保健医療政策学(資源の配分に関する基本的な考え方)
3	5/2(火)	3	福田 吉治 教授	ヘルスプロモーション・ポリシー
4	5/9(火)	3	橋本 英樹 講師(非)	貧困と健康
5	5/16(火)	3	井上 まり子 准教授	国際保健学
6	5/23(火)	3	高橋 謙造 准教授	地域保健学
7	5/30(火)	3	谷原 真一 教授	医療経済学
8	6/6(火)	3	井口 直樹 教授(客)	医療保障政策学

M
P
H

科目名	ヘルスポリシー概論	code number : HPM-POL 251	選択	1 単位
-----	-----------	------------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

まず、ヘルス・ポリシーの基本的な理論やモデル、根拠の基づく政策立案の手法を説明する。後に、実際の行政に関わっている非常勤講師より、わが国の厚生行政の仕組み等について講義を行う。さらに、個別な政策として、NCD対策(健康づくり、健康増進計画等)、がん対策、医師等の人材育成・確保対策、母子保健、精神保健、障害者保健、学校保健、地域医療構想、地域包括ケアシステム等について概要を説明する。まとめとして、各受講生が関心のある領域あるいはこれまでに経験した領域についての現状と課題、今後のあり方の提言をまとめてもらう。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.ヘルスポリシーの基本的な考え方と理論、現在行われている健康政策を理解し、その課題を抽出し、課題解決のために必要な政策を提言できるための知識と技術を習得する。

【行動目標(SBO)】

- 1.ヘルス・ポリシーの理論・モデル、根拠に基づく政策立案の基本的な考え方を理解し、説明できる。
- 2.わが国の保健医療福祉制度、公衆衛生行政システム、主な公衆衛生法規を理解し、説明できる。
- 3.NCD対策、地域医療等、国や地方自治体の主な公衆衛生施策の背景、現状、課題を説明できる。
- 4.人口・保健・医療等に関する主な統計調査およびその政策への活用について説明できる。
- 5.公衆衛生施策の立案、実施、または評価を行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業への積極的な参加(50%)
 - (2) 発表およびレポート提出評価(50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

- ・厚生労働統計協会、国民衛生の動向(毎年8月ごろに最新号が出版される)

5. 参考書

- ・Buse K, Mays N, Walt G. Making Health Policy. Open Univerisy Press, 2012.
- ・週刊保健衛生ニュース(研究科として購入し、院生室に蔵書している。最新の厚生行政の動向のチェックを)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・学生間での討論を重視するので、講義中に指示された資料・参考書・文献を事前に熟読しておくこと。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

ヘルスポリシー概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/14(水)	4	福田 吉治 教授	ヘルス・ポリシーの理論1:アジェンダ設定、プランニング
2	6/21(水)	4	福田 吉治 教授	ヘルス・ポリシーの理論2:ステークホルダー分析、評価
3	6/28(水)	4	田中 剛 准教授(客)	日本の厚生行政の仕組みと政策決定メカニズム
4	7/5(水)	4	田中 剛 准教授(客)	公衆衛生危機管理(国内のコーディネーションを中心に)
5	7/12(水)	4	福田 吉治 教授	歴史からみた公衆衛生行政 人口・保健・医療統計とその政策への活用
6	7/19(水)	4	福田 吉治 教授	日本の公衆衛生施策1:NCD対策、がん対策、人材育成・確保、等
7	7/26(水)	4	福田 吉治 教授	日本の公衆衛生施策2:母子保健、精神保健、障害者保健、自殺対策、等
8	8/2(水)	4	福田 吉治 教授	日本の公衆衛生施策3:医療、社会保障、地域医療構想、地域包括ケアシステム、等

M
P
H

科目名	医療経済学	code number : HPM-BIZ 211	選択	2 単位
-----	-------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療は大きな社会システムの一部である。その医療を正確に分析するには社会システム分析ツールである経済学が必要である。特にミクロ経済学は絶対不可欠な分析ツールである。また医療経済学で語られる言葉も大半は厳密な経済学的定義があり、それを正確に理解しておくことが有意義な議論の第一歩となる。本講ではすべての基礎となるこの古典的ミクロ経済学を初歩から徹底的に理解し、それを医療に的確に応用できるようになることを目標とする。具体的には初級ミクロ経済学を医療者向けにアレンジして解りやすく時間をかけて講義する。さらに現在社会問題となっている医療問題を取り上げて、ミクロ経済学的分析を応用して問題の経済学的原因を議論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 経済学的思考を公衆衛生学に応用する。

【行動目標(SBO)】

1. ミクロ経済学的ツールを用いて医療問題を分析できる。

2. 現在日本が直面する医療に関する問題を経済学的視点から理解し、解決方法を提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%
(2) 講義内でのテスト:50%

4. 教科書・テキスト

・Mankiw NG. Principles of microeconomics. 5th Ed. Cengage Learning, Mason, OH. 2008 (訳本:マンキュー経済学第2版Iミクロ編、東洋経済新報社)

5. 参考書

- ・柿原浩明 入門医療経済学。日本評論社、2005年
・その他一般的なミクロ経済学教科書

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
(①②などは教科書の予習すべき章を示す。)
・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※授業計画:講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/12(月)	3	中田 善規 教授	導入:医療と経済学①
2	6/12(月)	4	中田 善規 教授	経済学的思考・相互依存と交易の利益②③
3	6/19(月)	3	中田 善規 教授	医療の需要・供給と平衡④⑥
4	6/19(月)	4	中田 善規 教授	医療の弾力性⑤
5	6/26(月)	3	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険1
6	6/26(月)	4	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険2
7	7/3(月)	3	中田 善規 教授	医療消費者・医療生産者と市場効率⑦
8	7/3(月)	4	中田 善規 教授	税のコスト⑥⑧
9	7/10(月)	3	中田 善規 教授	外部性・公共財と共有資源⑩⑪
10	7/10(月)	4	中田 善規 教授	患者の需要理論(消費者選択理論)⑫
11	7/24(月)	3	中田 善規 教授	医療の生産理論・生産費用⑬
12	7/24(月)	4	中田 善規 教授	完全競争市場での医療の価格と生産⑭
13	7/31(月)	3	中田 善規 教授	独占での医療の価格と生産⑮
14	7/31(月)	4	中田 善規 教授	独占的競争と寡占の下での医療の価格と生産⑯⑰
15	7/31(月)	5	中田 善規 教授	まとめとテスト

科目名	医療保障政策論	code number : HPM-BIZ 212	選択	1 単位
-----	---------	------------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	火曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

我が国の社会保障制度全体における保健医療制度の位置づけを理解しつつ、我が国の保健医療制度の現状、課題につき医療提供体制及び公的医療保険制度のあり方を中心に検討する。また併せて介護保険制度など他の福祉制度との連携の在り方についても考えていく。なお、授業はなるべく双方向的に進めたいと考えているので積極的意欲をもった参加者を期待する。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1.保健医療(とくに医療)分野における行政制度・政策の概要、政策課題について理解し、今後保健医療の現場において指導的な役割を果たすための基礎的知識を得るとともに、今後の保健医療政策のあり方について自ら考え提案できる力を養うことを目標とする。

【行動目標 (SBO)】

- 1.社会保障の概念と基本的な考え方について説明できる。
- 2.日本の保健医療政策の特徴(諸外国との比較含む)について説明できる。
- 3.医療施設、医療マンパワー、地域医療計画、介護保険制度について説明できる。
- 4.日本の保健医療政策の抱える課題およびその解決策について検討し、提示することができる。

3. 成績評価の方法および基準

(1)課題・レポート(50%)

(2)授業への参加態度(50%)

注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

それぞれの授業にあたり、資料を配布する。

5. 参考書

上記文献のほか、厚生労働省『厚生労働白書』(厚生労働省HP)、厚生労働協会『国民衛生の動向』など

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に椋野・田中『はじめての社会保障』(有斐閣)、池上直己『ベーシック医療問題』(日本経済新聞社)、島崎謙治『医療政策を問いなおす』(ちくま新書)などを読んでおくことを期待する。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療保障政策論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	4	福田 吉治 教授 井口 直樹 教授(客)	社会保障とは～歴史と理論・日本の社会保障制度の現状と課題
2	9/26(火)	4	井口 直樹 教授(客)	日本の保健医療政策～政策体系と政策立案プロセスを考える
3	10/3(火)	4	井口 直樹 教授(客)	医療サービスの特性と医療保障政策(公的関与)の必要性
4	10/10(火)	4	井口 直樹 教授(客)	必要な医療提供体制の整備 (医療施設と医療マンパワー・地域医療計画)
5	10/17(火)	4	井口 直樹 教授(客)	持続可能な公的医療保険制度の確立 (安定財源の確保と医療費適正化)
6	10/24(火)	4	井口 直樹 教授(客)	諸外国の医療保障制度～ドイツ・英国・米国
7	10/31(火)	4	井口 直樹 教授(客)	公的医療保険制度と介護保険制度～在宅医療・介護を考える
8	11/7(火)	4	福田 吉治 教授 井口 直樹 教授(客)	「あるべき医療のあり方」について～討論

科目名	地域保健学	code number : HPM-CH 241	選択	2 単位
-----	-------	-----------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

地域保健に関して、

- 1) 住民／患者の視点:健康づくり、医療の利用、患者医師関係、医療情報利用の観点
- 2) 医療提供者の視点:家庭医療、地域医療の現場における医療活動、住民・患者との関係構築の観点
- 3) 地域社会の視点:さまざまなステークホルダーの協働による健康なまちづくり、コミュニティづくりの観点から、公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、講師および受講生同士でディスカッションを行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 知識習得型の座学ではなく、地域保健に関わっていく上で、解決策、実践案を案出し得る能力・ツールを修得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うことができる。
2. コミュニティ・コーディネートの手法について説明できる。
3. プロジェクト・サイクル・マネージメントを活用した問題分析、活動案案出を行うことが出来る。

(1) 授業への積極的な参加 (40%)

(2) レポート提出評価 (60%)

ただし、無断欠席については減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

1. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント:参加型計画編
http://www.fasid.or.jp/publication/6_index_detail.shtml

5. 参考書

1. 日本の保健医療の経験
http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/200403_02.html
2. Supportive supervision/mentoring and monitoring for community IYCF
http://www.unicef.org/nutrition/files/Supervision_monitoring_module_Nov_2012.pdf
3. Guidelines for Implementing Supportive Supervision. A step-by-step guide with tools to support immunization
http://www.path.org/vaccineresources/files/Guidelines_for_Supportive_Supervision.pdf

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・履修学生に事前に配布する。
- ・希望に応じて、実習(海外での調査、離島、僻地等)も行う。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域保健学概論・コミュニティと健康
2	6/13(火)	2	高橋 謙造 准教授	日本の地域保健発展の歴史(人材はどう育っていったか?)
3	6/20(火)	1	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	プライマリ・ヘルス・ケアからヘルス・プロモーションへ
4	6/20(火)	2	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	地域におけるフィールド調査概論/地域診断の概要
5	6/27(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(講義/実習)
6	6/27(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習1)
7	7/4(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習2)
8	7/4(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習3)
9	7/11(火)	1	石崎 達郎 講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
10	7/11(火)	2	石崎 達郎 講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
11	7/18(火)	1	山本 真 講師(非)	これからのコミュニティと地域保健:コミュニティ・コーディネートについて
12	7/18(火)	2	山本 真 講師(非)	コミュニティ・コーディネートについての実践ワークショップ
13	7/25(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域包括ケアについて考える
14	7/25(火)	2	高橋 謙造 准教授	地域包括ケアへの介入案
15	8/1(火)	1	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	発表・討論・まとめ

科目名	国際保健学概論	code number : HPM-GH 231	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生は今や国際的な視点を抜きに語ることができないほどに世界との関連が強くなっている。国際的な視点から保健医療を理解するうえで重要な健康指標と各種疾病の現状について学び、統計情報を用いて問題の程度を説明できるようにする。さらに、医療人類学の素養、保健医療システムの評価、財政、保健医療サービスについて多角的に議論する基本を学び、グローバルヘルスを考えるうえで重要な論点の整理と理解につとめる。

今も継続して対策が講じられている母子保健や感染症に関する問題から、現在特に注目されている課題、たとえば、非感染性疾患(Non-Communicable Diseases)や健康の社会的決定要因、環境問題、タバコ等にも理解を深める。テーマは多様であるが、国際社会におけるグローバル・ヘルス領域のガバナンス、日本や国際機関の方針や合意など、共通した世界の動向として理解する。事例に基づく演習なども一部取り入れ、実務経験が豊富な非常勤講師や教員と共に、現場での実際の課題への取り組みを学ぶ。

【一般目標(GIO)】

1. 国際社会における公衆衛生領域の重点課題を理解する。
2. グローバル・ヘルスに関する日本などの各国、国際機関、民間企業、NGOなどさまざまなステークホルダーの動向を知る。

【行動目標(SBO)】

1. 世界での代表的な公衆衛生の課題を人口統計や健康指標を用いて説明できる。
2. 国際的な公衆衛生の課題である貧困、乳児死亡・妊産婦死亡、感染症、環境衛生、健康の社会的決定要因や非感染性疾患、タバコなどの課題の概況を述べられる。
3. 上記課題に関するステークホルダーの役割を整理できる。
4. 日本政府の国際保健政策を説明できる。
5. 世界におけるグローバル・ヘルスの優先課題など、海外や国際機関などの動向を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業で行う課題や宿題 30%、授業中の発言 30%、最終課題 40%

4. 教科書・テキスト

授業開始前に配布する資料・文献等 授業第1回目で指示する。

5. 参考書

World Health Organization 各年次報告書、World Development Report、学術論文等 授業第1回目で指示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- (1) 事前に指定する資料や文献を授業前に読み、ディスカッションに参加できるようにしておくこと。
- (2) 当該期間に約10時間の予復習と課題への準備が必要。

7. その他履修上の注意事項

- (1) 試験やレポートに対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。
- (2) この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	3	井上まり子 准教授	授業オリエンテーション グローバル・ヘルスの優先課題 —国際的取組の変遷— ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(Universal Health Coverage) など
2	6/13(火)	4	井上まり子 准教授	疫学転換と非感染性疾患(Non-communicable diseases)
3	6/20(火)	3	高橋 謙造 准教授	国際保健の理解に必要な人類学の素養
4	6/20(火)	4	高橋 謙造 准教授	母子保健
5	6/27(火)	3	高橋 謙造 准教授	子どもと地域の健康 —世界の学校保健の取り組み—
6	6/27(火)	4	崎坂香屋子 准教授	国際的枠組みとしての災害対策
7	7/4(火)	3	田中 剛 准教授(客)	感染症 国際社会での取り組みと日本政府の対策
8	7/4(火)	4	矢野 榮二 教授	世界のタバコ対策 過去・現在・未来
9	7/11(火)	3	山本 秀樹 教授	世界の環境問題と健康
10	7/11(火)	4	山本 秀樹 教授	日本に住む外国人の保健医療問題
11	7/18(火)	3	渋谷 健司 講師(非)	Global Burden of Diseases/Global Health Policy and Practices
12	7/18(火)	4	渋谷 健司 講師(非)	グローバル・ヘルスが世界を動かす
13	7/25(火)	3	錦織 信幸 講師(非)	国際機関で公衆衛生課題に取り組む —WHOでの経験から—
14	7/25(火)	4	錦織 信幸 講師(非)	現場の公衆衛生課題解決に関する演習
15	7/25(火)	5	井上まり子 准教授	まとめ 最終課題の報告会

科目名	国際保健学演習	code number : HPM-GH 321	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 3,4時限	授業方法	演習

1. 授業の概要							
<p>国際保健分野の特定の課題を取り上げ、 1)何が問題なのか？についてディスカッションに基づいて特定し、 2)どのような議論が交されてきたかを把握し、 3)具体的な政策提言を英語で作って行く。</p>							
2. 授業の到達目標							
<p>【一般目標(GIO)】 1.国際保健分野のHot issueの概要について全般的に理解し、国際保健の現場にて活用しうる計画立案手法について修得することを目標とする。</p> <p>【行動目標(SBO)】 1.特定分野(感染症対策、非感染症対策、PHC、UHC等)について、その概要を説明できる。 2.Social Business等について説明できる。 3.政策提言を、英語で創出することが出来る。</p>							
3. 成績評価の方法および基準							
<p>(1) 授業への積極的な参加(事前学習の理解度、討議での発言など) (20%) (2) プレゼンテーション(文献レビュー、演習結果、課題活動報告等) (40%) (3) レポート (40%) ただし、無断欠席に関しては、減点の対象となる。</p>							
4. 教科書・テキスト							
指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること							
5. 参考書							
後日指定します							
6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> ・当日、簡潔な背景説明は行うが、文献類(事前に配布する)は読み込んでおくことが望ましい。 ・本演習で特に関心を持った部分に関して学びを深める。各個人がパワーポイントを用いて5分程度で紹介、解説し、自らの主張を含めて纏めて述べていただく。またそれに対し、質疑応答の時間を5分程度とる。 ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。 							
7. その他履修上の注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 							

<授業計画>

国際保健学演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	世界の健康格差と難民問題をBreak thoughするための演習 ～100人村ワークショップとチャドの難民対策プロジェクトから～
2	9/20(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(難民対策)
3	9/27(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	Resource limited countriesの保健政策 ～貿易ゲームを使って国家改善のための処方箋を考える～
4	9/27(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション (資源の極めて少ない国家の保健政策)
5	10/4(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	緊急非常事態である災害の発災と地域リーダーの役割(人のマネジメント) ～HUG, 避難所運営ゲームを使って～
6	10/4(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(災害被災者対策)
7	10/11(水)	3	野村真利香 講師(非)	災害対応とソフィア基準(避難所のマネジメント)
8	10/11(水)	4	野村真利香 講師(非)	政策提言立案・プレゼンテーション(給水事業、衛生施設)
9	10/18(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	Water and Sanitation:開発途上国の子どもの命、健康を守る社会サービスとは
10	10/18(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(給水事業、衛生施設)
11	10/25(水)	3	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	EPI(拡大予防接種計画)のトレンド
12	10/25(水)	4	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	政策提言立案・プレゼンテーション(災害)
13	11/1(水)	3	松井 範惇 教授	Social Business for Quality of Life: 途上国などを中心に
14	11/1(水)	4	松井 範惇 教授	Social Businessの活用
15	11/1(水)	5	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	まとめ、ディスカッション

科目名	国際母子保健学	code number : HPM-GH 241	選択	1 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 5時限	授業方法	講義

1. 授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> 母子保健分野の課題を理解するための視座を獲得し、数多い政策課題を理解できる能力を身につける。 そのための視点、ツールを習得する。 							
2. 授業の到達目標							
<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>1. 母子保健に関する課題を、先進国、途上国にかぎらず俯瞰して、世界的な母子保健政策に関する知見を備えた実務家となることを目標とする。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>1. 先進国、途上国の母子保健医療政策の現状・課題を把握し、制度や課題について説明出来る。</p> <p>2. 国際的な視点から、政策を相対化し、評価出来る。</p> <p>3. 実務に従事する際に、学びを活かすことが出来る。</p>							
3. 成績評価の方法および基準							
<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション資料(70%)、講義における議論の参加度(30%)で総合評価する。 毎回の講義の担当者を決定し、資料を配布するので、その内容に関してプレゼンテーションできる準備をして臨むこと。発表されたプレゼンテーション資料が評価の対象となる。 ただし、無断欠席に関しては、減点の対象となる。 							
4. 教科書・テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> 特に指定しない 							
5. 参考書							
講義前にLMSに参考文献を掲載するので、熟読して参加すること。							
6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> 本コースでは、受講生の間での討論を重視するので、指示された資料・参考書・文献は、担当者以外も事前に熟読しておくこと。 当該期間に12時間以上の予復習が必要。 							
7. その他履修上の注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> 試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 							

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	5	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	世界的母子保健政策のOverview (データで観る母子保健課題)
2	6/20(火)	5	高橋 謙造 准教授	日本における母子保健課題1 (少子化対策、待機児童の現状)
3	6/27(火)	5	高橋 謙造 准教授	日本における母子保健課題2 (小児の貧困、児童虐待の現状)
4	7/4(火)	5	高橋 謙造 准教授	Midwifery trend
5	7/11(火)	5	高橋 謙造 准教授 野村真利香 講師(非)	Newborn health
6	7/18(火)	5	高橋 謙造 准教授	Continuum of Careについて考える (母子健康手帳が担保するサービス)
7	8/1(火)	4	高橋 謙造 准教授	災害対応とChild Protection
8	8/1(火)	5	高橋 謙造 准教授	総合討論、発表

科目名	国際保健学実習	code number : HPM-GH 371	選択	1 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

近年、国際的な公衆衛生の課題は人口や疾病の構造転換、そして国際協力に携わる組織の多様化など、変化がみられる。そうしたグローバルヘルス分野での俯瞰的な潮流変化を把握すると共に、実際のフィールドにおける情報収集から現状分析を行う。地域から国レベル、そして国際的な取り組みとしての公衆衛生問題解決の仕組みを学び、各ステークホルダーのかかわりについて実践の場で理解する。

詳細な現地のプログラムは履修者の国際保健での経験や希望を考慮し個別に企画する。訪問国の政情や自然災害等の状況により実習実施が困難である場合については実習場所と内容を変更することがある。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

- 1.国際協力のフィールドにおける問題認知とその分析方法や解決能力の素養を知る。
- 2.専門職として組織のマネジメント・運営について基礎を身につける。
- 3.公衆衛生に関わる国際社会のステークホルダーの機能を実践の場で知る。
- 4.海外協力の専門家らと意見交換し、将来のキャリア形成について考える。
- 5.国際保健における社会的起業(entrepreneurship)の考え方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

- 1.国際協力のフィールドにおける問題を認知し分析して、解決するための基本的な方法について説明できる。
- 2.専門職として組織のマネジメント・運営についての基礎や関わる国際社会のステークホルダーについて説明できる。
- 3.海外協力の専門家らと意見交換し、将来のキャリア形成、国際保健における社会的起業の考え方について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・実習への参加態度(50点)、帰国後のレポート(50点)
- ・実習の形態によっては受け入れ先機関からの評価を考慮する。

4. 教科書・テキスト

- ・実習前に指示する。

5. 参考書

- ・実習前に分野に応じて指示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・実習に必要な関連知識について調べておくこと。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本実習を履修するには、国際保健学概論、国際保健学演習の履修することを推奨する。
- ・本実習への参加の費用(渡航費・滞在費・海外旅行傷害保険料)は基本的に各自の負担である。
- ・レポートを提出し、実習報告会で発表する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
<p>本実習は、海外のフィールドならびに国際的な活動を行う現場に滞在する中で、その地域や現場での問題を見出し、解決する方策を実践の場で考えることを目的としている。主に夏季・冬季に海外のフィールドで現地の受け入れ先との調整によって決定する。</p> <p>今年度は個別に実習の機会を設ける。履修希望者は4月中に科目責任者に連絡をとること。</p> <p>過去の実習例： バングラデシュでの実習</p> <p>近年、国際保健を取り巻く潮流の変化が生じており、従来の国連機関・政府機関が実施する国際協力から、民間の機関が果たす役割が大きくなっている。本実習では、従来最貧国といわれてきたが、近年経済発展も著しく、社会的起業(entrepreneurship)やBOPビジネスのメッカともいえるバングラデシュ国を訪問し、同国における新しい国際協力のあり方について学んだ。訪問先はバングラデシュ国際下痢研究所、BRAC大学公衆衛生大学院、UNICEF等の組織であった。各地での観察等を通じて現地の問題を把握し、その解決の方策を検討した。</p> <p>フィリピン共和国での実習</p> <p>実習参加者は事前学習において期間中に注目するテーマを決めて実習に臨んだ(例:結核)。同国タルラック州の自治体において、Barangay Health Worker宅にホームステイして住民の生活の中から事前に設定した問題について考えた。またヒアリングを通じて情報を得て、どのような要因が関係しているのかを把握した。Barangay(最小行政単位)、町、州、国、世界全体での問題の公的統計による現状把握と対策についても情報を得て分析した。</p> <p>国のレベルとして保健省を訪れ、現在の保健医療政策に関して情報を得、参加者のテーマに即した分野の保健医療政策とその遂行状況を学んだ。そのほかのステークホルダーとして世界保健機関(WHO)西太平洋事務局と複数のNGOを訪れ、参加者が設定した問題の解決のためにいかに異なる組織が活動しているのかを体験する機会を得た。</p>				

科目名	ヘルスデータ分析入門	code number : HPM-INF 231	選択	2 単位
-----	------------	------------------------------	----	------

科目責任者	谷原 真一 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

保健医療福祉分野では日常業務を通じて大量のデータが集積される。まず、これらの既存データの特性について説明する。後に、保健医療福祉分野の各分野で実際に集積されるデータについて、より具体的な説明を行う。さらに、それぞれの既存データの利活用の現状と課題について概要を説明する。まとめとして、各受講生が関心のある領域において既存データを活用した調査研究事例を検討することを通じて、保健医療福祉分野における既存データの利活用に関する提言をまとめてもらう。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1.保健医療福祉分野における各種データの利活用ができる。

【行動目標 (SBO)】

- 1.保健医療福祉分野において日常業務を通じて集積されるデータの特性について説明できる。
- 2.保健医療福祉分野における各種データの現状と課題について説明できる。
- 3.保健医療福祉分野における各種データを用いた調査研究について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)レポート(80%)
- (2)講義への積極的な参加(20%)

4. 教科書・テキスト

なし(原則として講義資料を使用する。)

5. 参考書

- 1)厚生労働統計協会. 国民衛生の動向(毎年8月ごろに最新号が出版される)
- 2)篠原出版新社. 医療情報サブノート

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・授業では、受講生の間での討論も行うので、指示された資料・参考書・文献を事前に読んでおくこと。
- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

ヘルスデータ分析入門

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	3	谷原 真一 教授	ヘルスデータの種類と特性
2	11/13(月)	4	谷原 真一 教授	政府統計
3	11/20(月)	3	谷原 真一 教授	診療報酬明細書(レセプト) 1)DPC (Diagnosis Procedure Combination)
4	11/20(月)	4	谷原 真一 教授	診療報酬明細書(レセプト) 2)DPC以外のレセプト
5	11/27(月)	3	谷原 真一 教授	感染症サーベイランス
6	11/27(月)	4	谷原 真一 教授	健康診断データ
7	12/4(月)	3	谷原 真一 教授	診療録およびその他の医療記録
8	12/4(月)	4	谷原 真一 教授	医療情報の標準化
9	12/11(月)	3	谷原 真一 教授	保健医療福祉情報システム
10	12/11(月)	4	谷原 真一 教授	ヘルスデータ分析と個人情報保護法および倫理指針
11	12/18(月)	3	谷原 真一 教授	ヘルスデータ分析に用いる疫学指標
12	12/18(月)	4	谷原 真一 教授	ヘルスデータ分析に用いるソフトウェア
13	12/25(月)	3	谷原 真一 教授	事例検討1)
14	12/25(月)	4	谷原 真一 教授	事例検討2)
15	2/5(月)	3	谷原 真一 教授	まとめ

M
P
H

科目名	医療管理学・安全管理学概論	code number : HPM-BIZ 213	選択	2 単位
-----	---------------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療現場では様々な問題が日々起こり、それに対して適切な対応を適時に求められる。そのためには医療現場の現状を知り、起こりうる問題の根本原因を見いだせることが必要となる。本講では医療現場の現実やその問題点を管理者の立場で理解する。また、医療管理に必要な経営学・経済学なども身につけることを目標にする。具体的には医療管理上必要な医療組織・法律・医療制度・医療安全管理・医療倫理等を概観し、それぞれの問題点について議論し理解を深めてゆく。また昨今マスコミなどで話題となっている医療問題についても適宜取り上げて、その根本原因を議論しながら複雑な医療制度・体制・組織を理解する一助とし、将来医療管理者の立場に立ったときに応用できるように準備する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療管理・安全管理の基礎を概観する。

【行動目標(SBO)】

- 1.医療管理の基本的経営手法を理解できる。
- 2.医療安全上の問題点を正確に把握し、解決方法を提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%
- ・レポート提出:50%

4. 教科書・テキスト

・なし

5. 参考書

- ・第1回講義時に指定する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・第1回講義時に指定する書籍(参考書・論文など)を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※帝京大学医学部附属病院安全管理部会のメンバーを招聘しての講義またはスモール・グループ・ディスカッションなどの形式で議論する。
- ・プレゼンテーションに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
 - ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療管理学・安全管理学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/17(月)	3	中田 善規 教授	導入
2	4/17(月)	4	河内 正治 教授	医療安全と医療訴訟の基本 (医学部麻酔科学講座・安全管理部長)
3	4/24(月)	3	田村 桂一 講師(非)	会計学の基礎
4	4/24(月)	4	上野 京子 講師(非)	有害事象の未然防止 (安全管理部専従看護師)
5	5/1(月)	3	田村 桂一 講師(非)	医療と会計学
6	5/1(月)	4	松野 彰 教授	発生した有害事象への適切な対応 (医学部脳神経外科学講座・管理担当副院長)
7	5/8(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制①
8	5/8(月)	4	宮内 賢三郎 講師(非)	暴力対応・刑事事件化対応など (安全管理部渉外担当)
9	5/15(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制②
10	5/15(月)	4	川崎 義隆 講師(非)	医療機器に関する安全管理 (医療機器安全ME)
11	5/22(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制③
12	5/22(月)	4	岩田 佐知子 講師(非)	苦情相談への対応 (医療サービス課課長)
13	5/29(月)	3	松永 直久 講師	感染症に関する安全管理 (医学部内科学講座・感染制御部部长)
14	5/29(月)	4	渡邊 真知子 教授	薬剤に関する安全管理 (薬学部臨床薬学講座臨床薬学分野・薬剤部部长)
15	5/29(月)	5	中田 善規 教授	組織行動管理・まとめ

科目名	リーダーシップ・マネジメント論	code number : HPM-BIZ 214	選択	1 単位
-----	-----------------	------------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。また、最近ではインターネットの普及やマスメディアの情報発信機能の向上により、ヘルスコミュニケーションのあり方は大きく変化している。そこで、医療専門家から国民に広く発信する情報提供(診療実績、診療ガイドライン、疫学調査報告、臨床試験登録など)、医療専門家でなくマスメディアから国民に広く発信する情報提供(ニュース、健康番組など)、医療専門家の間での情報交流(専門誌、学会、研究会、インターネットなど)、患者を含む国民の間での情報交流など様々なレベルでのヘルスコミュニケーションについてその意義や課題について討論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間組織一般について理解する。
2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる・個人や社会として最適な健康上のアウトカムを得るために必要な医学・医療に関する知識や情報を正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうヘルスコミュニケーションの理論体系を理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 具体的な状況をシミュレーションしながら、ヘルスコミュニケーションが実践できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (15%)
- (4)レポート (15%)

4. 教科書・テキスト

- ・各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

- ・Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices. Harper, 1973
- ・岩崎夏海:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら ダイアモンド社, 2009年
- ・P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳「エッセンシャルズ版マネジメント—基本と原則」ダイアモンド社, 2013年
- ・石川 ひろの, 武田 裕子(翻訳). 患者と医師のコミュニケーション. 篠原出版新社, 2007年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

リーダーシップ・マネジメント論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	2	中田 善規 教授	導入 (組織マネジメント論と事業マネジメントの基本)
2	9/27(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップ (リーダーシップの種類と自己分析)
3	10/4(水)	2	中尾 睦宏 教授	医療や職域における保健指導と健康教育の実際 ヘルスコミュニケーション理論に基づいた質問紙や面接法による評価方法について学び、代表的な評価方法の幾つかをマニュアルにそって実施する。
4	10/11(水)	2	中尾 睦宏 教授	健康づくり政策における保健指導・健康教育の実際 特定健診・保健指導、データヘルス計画等、現在の健康づくり施策における保健指導や健康教育の考え方と実際について学ぶ。
5	10/18(水)	2	石川ひろの 講師(非)	患者・医療者間のコミュニケーション 患者・医療者関係に関する理論と概念を学び、患者とのコミュニケーションのあり方について考える。
6	10/25(水)	2	石川ひろの 講師(非)	ヘルスコミュニケーションの評価と実証研究 医療コミュニケーションの評価方法と実証研究を紹介し、臨床や教育への応用について考える。
7	11/1(水)	2	石川ひろの 講師(非)	グループ・組織内コミュニケーション グループ・組織におけるコミュニケーションの理論を紹介し、保健医療スタッフ間のコミュニケーションについて考える。
8	11/8(水)	2	石川ひろの 講師(非)	メディアを通じたコミュニケーション 健康医療情報の普及におけるマスメディアの役割及び影響を考えるとともに、エンターテインメント・エデュケーション、シリアスゲームなど、新しいヘルスコミュニケーションの手法について紹介する。

科目名	医療経営学演習	code number : HPM-BIZ 301	選択	2 単位
-----	---------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

医療経営においては通常の経営学の知識のみならず、医療現場の現実にも精通していることが重要である。特に医療従事者はほぼすべて免許を持つ専門職であるため、通常の経営学的手法での管理は困難な場合がある。さらに外部要因として医療は厳しく規制された産業である。この制約の中で医療従事者たちが本来の専門能力を十分に発揮できるシステム・仕組みを構築し状況に合わせて維持してゆくことが医療経営の要であり、ひいては患者が医療の恩恵を十分に享受できるようになる。本講では、通常の経営学的な知識(ミクロ経済学・会計学・人材管理学・組織行動学など)を医療現場でどのように適応させるかについて理解することを目標とする。同時に医療現場の現実に関する知識も身につける。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療・公衆衛生に経済学を応用する。

【行動目標(SBO)】

- 1.医療経済学の標準的理論を学習し、基本的分析ツールを理解できる。
- 2.医療経営上の具体的問題点を経済学的観点から把握し、これを分析できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

・Folland S, Goodman AC, Stano M. The economics of health and health care. 7th Ed. Pearson, Upper saddle River, NJ. 2013

5. 参考書

・橋本英樹、泉田信行:医療経済学講義 東京大学出版会 2011

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
- ・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※授業出席者全員による分担報告、相互討論と教官による補足コメント等を組み合わせる(輪読形式)。
- 教科書の第5章から第13章を順番に学生が報告する。
- ・それぞれのプレゼンテーションに対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/25(月)	3	中田 善規 教授	導入・解説・輪読分担当決定(第1章)
2	9/25(月)	4	中田 善規 教授	医療経済学のためのマイクロ経済学ツール(第2章)
3	9/25(月)	5	中田 善規 教授	健康の生産(第5章)
4	10/2(月)	3	中田 善規 教授	医療の生産・費用・技術(第6章)
5	10/2(月)	4	中田 善規 教授	健康資本の需要(第7章)
6	10/2(月)	5	中澤 達 講師(非)	DPCに関する諸問題
7	10/16(月)	3	中田 善規 教授	健康保険の需要と供給(第8章)
8	10/16(月)	4	中田 善規 教授	消費者選択と需要(第9章)
9	10/16(月)	5	中田 善規 教授	非対称情報とエージェンシー(第10章)
10	10/30(月)	3	中田 善規 教授	健康保険市場の構成(第11章)
11	10/30(月)	4	中田 善規 教授	マネージド・ケア(第12章)
12	10/30(月)	5	中田 善規 教授	非営利組織(第13章)
13	11/6(月)	3	中田 善規 教授	病院と長期ケア(第14章)
14	11/6(月)	4	中田 善規 教授	医師開業(第15章)
15	11/6(月)	5	大嶽 浩司 教授(客)	医療を取りまく経済と経営

科目名	医療管理学実習	code number : HPM-BIZ 351	選択	1 単位
-----	---------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

医療経営・管理・経済学の理論を踏まえたうえで、現実の医療現場を経営・管理・経済学の視点から見て、その問題点を把握することが重要である。一専門職としてではなく、一步離れた立場から問題点を俯瞰し、全体最適化を目指すトレーニングを行う。本実習では医療現場が実際に直面する問題を例として取り上げ、その解決の可能性をグループ・プロジェクトとして議論・提示して、現代の医療の抱える問題点を実感することを目標とする。実習する医療現場としては下記の2つの選択肢の中から選ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療を医療管理の観点から実習する。

【行動目標(SBO)】

- 1.医療管理上の問題を実地体験し、説明できる。
- 2.管理上の問題点を的確に把握し、解決方法を提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)実習への積極的参加:50%
- (2)実習テーマに関するレポート:50%

4. 教科書・テキスト

・特になし

5. 参考書

・特になし

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・それぞれの実習課程で決められた事前課題を予習する。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本実習を履修する場合には、医療管理学・安全管理学概論の履修を前提とする。
- ・レポートに対し、実習の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
<p>I. 帝京大学医学部附属病院での医療管理学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務次長または実習担当者の指示に従い、病院各部門の実務を見学する。 2. 単位認定希望者のみ附属病院における医療管理上の問題点を発見しその解決案を報告する(A4版2～3枚程度)。 3. 提出された報告書は、附属病院幹部にも配布して実際の業務改善につなげる予定である。 <p>II. 他施設での医療管理学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療管理学実習は1単位なので、それ相当のコミットメントが必要となる。 2. 単位認定希望者のみ実習施設における医療管理上の問題点を発見しその解決案を報告する(A4版3枚程度)。 <p>尚、授業日時については、夏季休業前に本科目履修希望者と指導教員にて個別に設定する。</p>				

科目名	Healthcare Management	code number : HPM-POL 411	選択	1 単位
-----	-----------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要 Course Overview

This course will introduce you to the basic principles of organizational behavior. These principles have become increasingly important in research, practice and policy making in the public health sector. The course is composed of three parts: a) individual in the organization, b) groups in the organization, and c) organization system. The course will cover the standard topics studied in introductory organizational behavior, but will emphasize issues of particular relevance to public health sector, and will use examples and problems taken from the public health sector.

2. 授業の到達目標 Objective of the course

This course is designed to meet the following GIOs and SBOs.

General Instructive Objectives (GIOs)

1. The main objective of the course is to familiarize the students with the basic concepts and tools of organizational behavior used in research and in practice, and to serve as an introduction to more advanced courses in public health leadership.

Specific Behavioral Objectives (SBOs): Participants can

1. apply theory of organizational behavior to health care and public health.
2. manage health care organization based on scientific evidence.

3. 成績評価の方法および基準 Evaluation

Participation in class discussion (50%), Oral examination (50%)

4. 教科書・テキスト Textbook

The course textbook is: Robbins SP, Judge TA. Essentials of Organizational Behavior, 13th ed. Pearson, 2015. The students are required to read the designated chapters before each class. 8 sessions x 90 min each.

5. 参考書 Recommended readings

Suggested readings:

Healthcare Management

- 1 Walshe K, Smith J. (eds): Healthcare Management, Open University Press, London, 2006.
- 2 Kovner AR, McAlearney AS, Neuhauser D: Health Services Management, Cases Readings and Commentary, 9th ed., Health Administration Press, Chicago, 2009
- 3 Lombardi DM, Schermerhorn JR: Health Care Management, John Wiley & Sons, Hoboken, 2007
- 4 Buchbinder SB, Shanks NH: Introduction to Health Care Management, Jones and Bartlett Publishers, Sudbury, 2007
- 5 Dunn RT: Haimann's Healthcare Management, 8th ed., Health Administration Press, Chicago, 2007
- 6 Ozcan YA: Quantitative Methods in Health Care Management, 2nd ed., Jossey-Bass, San Francisco, 2009

Leadership

- 7 Leadership Berry LL, Seltman KD: Management Lessons from Mayo Clinic, McGraw-Hill, New York, 2008
- 8 Bass BM: The Bass Handbook of Leadership, 4th ed., Free Press, New York, 2008

Healthcare System

- 9 Brown ER: Rockefeller Medicine Men, University of California Press, Berkeley, 1979
- 10 Reid TR: The Healing of America, The Penguin Press, New York, 2009
- 11 Herzlinger R: Who Killed Health Care?, McGraw-Hill, New York, 2007
- 12 Porter ME, Teisberg EO: Redefining Health Care, Harvard Business Press, Boston, 2006

General Management

- 13 Milgrom P, Roberts J: Economics, Organization and Management, Prentice Hall, Englewood Cliff, 1992
- 14 Jacobs CS: Management Rewired, Penguin Group, New York, 2009
- 15 Lundin SC, Paul H, Christensen J: Fish!, Hodder and Stoughton, London, 2000
- 16 van Vugt M, Ahuja A. Naturally Selected, HarperCollins, New York, 2011
- 17 Martin R. The Responsibility Virus, Basic Books, New York, 2002

18 Dixit AK, Nalebuff BJ. Thinking Strategically: The Competitive Edge in Business, Politics, and Everyday Life. W W Norton, 1993
 19 Levy S. In the Plex: How Google Thinks, Works, and Shapes Our Lives. Simon & Schuster, New York, 2011
 20 Gonzales L. Deep Survival. Norton, New York, 2003
 21 Christensen CM. The Innovator's Dilemma. Harper Business, New York, 1997
 22 Burrough B, Helyar J. Barbarians at the Gate. Harper Business, 1988
 23 Covey SR. The Seven Habits of Highly Effective People. Free Press, 1989
 24 Peter LJ, Hull R. The Peter Principle. Harper Business, 2009
 25 Robbins SP, Judge TA. Essentials of Organizational Behavior, 12th ed. Pearson Education Limited, 2012
 26 Slywotzky A, Wise R. How to Grow When Markets Don't. Warner Books, 2003
 Ethics and Legal Issues
 27 Showalter JS: The Law of Healthcare Administration, 5th ed., Health Administration Press, Chicago, 2008
 28 Gawande A. The Checklist Manifesto, Metropolitan Books, New York, 2009
 29 Miller GW. King of Hearts: The True Story of the Maverick Who Pioneered Open Heart Surgery. Crown Publishers, New York, 2000
 30 Harbin T. Waking Up Blind. Langdon Street Press, 2009
 31 Marx D. Whack-a-Mole: The Price We Pay for Expecting Perfection. By Your Side Studios, 2009
 32 Marx D. Dave's Subs. By Your Side Studios, 2015.
 33 Woodford M. Exposure: Inside the Olympus Scandal. Penguin, 2012.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間 Expected time to accomplish homework assignments

- Study technical terminology before class.
- Sixteen hour preparation will be necessary for all the sessions.

7. その他履修上の注意事項 Others

- May give feedbacks on exams in class.
- Must understand the relation between this class and overall curriculum policy.

<授業計画>

Healthcare Management

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/12(土)	1	Yoshinori Nakata Professor	Introduction (Ch1)
2	8/12(土)	2	Yoshinori Nakata Professor	Individual Perception and Decision Making (Ch6)
3	8/13(日)	1	Yoshinori Nakata Professor	Motivation I and II (Ch7+8)
4	8/13(日)	2	Yoshinori Nakata Professor	Communication Process (Ch11)
5	8/14(月)	1	Yoshinori Nakata Professor	Leadership (Ch12)
6	8/14(月)	2	Yoshinori Nakata Professor	Power and Politics (Ch13)
7	8/15(火)	1	Yoshinori Nakata Professor	Conflict and Negotiation (Ch14)
8	8/15(火)	2	Yoshinori Nakata Professor	Organizational Change (Ch17)

科目名	Universal Health Coverage & Aging Society	code number : HPM-BIZ 421	選択	1 単位
-----	---	------------------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要 Course Overview

Universal Health Coverage (UHC) is an important element of the global health agenda in ensuring that all people obtain necessary health services without financial hardship. Moreover, ageing of the population is a continuing problem around the world regardless of the each individual country's level of development. This means that UHC must be achieved in a world facing both demographic and epidemiological transitions. With regard to discussions on UHC in ageing societies, a simple focus on the elderly population is insufficient. We need a grand social design to promote the reforms necessary to overcome changes related to the ageing population. A wide range of public health skills and knowledge is required to support a cross-spectral approach to achieving UHC through a better understanding of good practices.

The purpose of this course is to provide students with an understanding of the global health agenda in terms of Universal Health Coverage, particularly in an ageing society. Japan is one of the countries experiencing a rapid growth in the elderly population. Through a combination of in-class lectures, discussions, and site visits, we would like to use the situation in Japan as a case study of how UHC can be achieved in an ageing society.

2. 授業の到達目標 Objective of the course

This course is designed to meet the following GIOs and SBOs.

General Instructive Objectives (GIOs)

- (1) To understand the current state of UHC and population ageing in Japan and around the world
- (2) To identify the stakeholders and their role in achieving UHC
- (3) To develop effective strategies for achieving UHC in an ageing society

Specific Behavioral Objectives (SBOs): Participants can

- (1) Describe the background and trends to setting the global agenda on UHC
- (2) Understand the statistical data related to demographic and epidemiological transitions.
- (3) Define and provide an overview of UHC in Japan and around the world.
- (4) Perform stakeholder analysis and explain each stakeholder's role in achieving UHC, particularly in a local setting.
- (5) Understand the policies and projects related to UHC in Japan from multiple perspectives, such as the health insurance system, health human resources, health financing, regulation, social welfare, community development, and other relevant areas.
- (6) Develop effective alternative strategies for achieving UHC in an ageing society in their own region or countries.

3. 成績評価の方法および基準 Evaluation

In-class discussion 70%, Final report/presentation 30%

4. 教科書・テキスト Textbook

Textbooks and reading materials will be announced on the first day of the class.

5. 参考書 Recommended readings

- (1) World Health Organization. *World report on ageing and health*. Geneva: WHO; 2015

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間 Expected time to accomplish homework assignments

- Study technical terminology before class.
- Five hour preparation will be necessary for all the sessions.

7. その他履修上の注意事項 Others

- May give feedbacks on exams in class.
- Must understand the relation between this class and overall curriculum policy.

<授業計画>

Universal Health Coverage & Aging Society

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/21(月)	3	Mariko Inoue Associate Professor	Introduction
2	8/21(月)	4	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 1. Universal Health Coverage
3	8/22(火)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 2. Ageing in Japan
4	8/22(火)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 3. Japan Vision Health Care 2035
5	8/22(火)	3	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 4. Role of local government in Japan
6	8/22(火)	4	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 5. The power of innovation
7	8/23(水)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Case 1 Health policy for ageing society in Japan
8	8/23(水)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Site visit 1.
9	8/23(水)	3	Mariko Inoue Associate Professor	
10	8/23(水)	4	Mariko Inoue Associate Professor	
11	8/24(木)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Case 2 Good practices to achieve UHC of Japanese local government
12	8/24(木)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Site visit 2
13	8/24(木)	3	Mariko Inoue Associate Professor	
14	8/24(木)	4	Mariko Inoue Associate Professor	
15	8/25(金)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Wrap up

科目名	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ) ^(※) code number : HPM 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	---	----	------

科目責任者	Alastair Gray 客員教授(※)
-------	-----------------------

配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義
------	-------	------	----------	-------	-----	------	------

1. 授業の概要

経済学とは、また医療経済学とは何か。本講義ではコストを軸とした健康と豊かさの評価、費用対効果の概念を中心に、公衆衛生の経済学的側面の基礎を身につける。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療経済学をコスト・効果の対比で理解する。

【行動目標(SBO)】

- 1.保健と医療の文脈における経済学および経済学的手法について説明できる
- 2.コストの概念を説明できる
- 3.クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)を測定し、評価するための技術を説明できる
- 4.費用対効果分析の概念を理解できる

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業における議論への参加度(50%)
- (2) 最終の口頭試験(50%)

4. 教科書・テキスト

・特に指定しない。

5. 参考書

・講義で紹介。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に16時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/20(土)	1	Alastair Gray 教授(客)	経済、医療、そして医療経済学
2	1/20(土)	2	Alastair Gray 教授(客)	経済学の手法を医療分野に適用する
3	1/21(日)	1	Alastair Gray 教授(客)	コスト
4	1/21(日)	2	Alastair Gray 教授(客)	疾病のコストと負担
5	1/22(月)	1	Alastair Gray 教授(客)	クオリティ・オブ・ライフの測定と評価
6	1/22(月)	2	Alastair Gray 教授(客)	疾病のモデリングと意思決定モデル
7	1/23(火)	1	Alastair Gray 教授(客)	優先順位決定のための費用対効果分析の導入
8	1/23(火)	2	Alastair Gray 教授(客)	還付決定のための費用対効果の導入(英国のNICEを例に)

M
P
H